

## 東京 IPO 特別コラム

2019年1月10日 Vol.138

### 戻り相場を展開する昨年12月のIPO銘柄

昨年のブラッククリスマスとも言うべき12月25日、26日の調整場面から年明けの株式相場は多少戻りつつある。とは言え先般までの調整色の強い展開が脳裏にある中で、なかなか積極的な投資はできないというのも偽らざる投資家心理だ。戻るとすぐに売りが出て頭重くなる展開が見られる中で昨年12月にIPOした19の銘柄も大きく調整した後、戻りに転じてはいるが、相変わらず公開初値を下回って推移する銘柄が見られる。中には公開価格すら下回っている銘柄もあり、テーマ性を背景に人気を集めている銘柄との間に二極化が見られる。

初値割れの代表銘柄は5%の配当利回りでデビューしたソフトバンク(9434)。公開価格を2.5%下回って初値がついた後に同社株は20%近い値下がりを見せたが、その後は戻り歩調。ファーウェイ問題に通信障害などネガティブな材料で揺れた同社だが、さすがに配当利回りが5%以上となれば買いたい投資家も出てくるだろう。今月末に予定されるインデックス買いも期待され、戻り相場の展開が見られるのは、多くの投資家にとっては朗報と言える。

大幅な初値割れ銘柄の中では12月21日にマザーズ上場のドローンメーカー、自律制御システム研究所(6232・公開価格3400円・初値2830円)が特筆すべき値動きを見せている。同社株は初値からクリスマスの日に初値から25%下落し安値2133円をつけたが、その後本日の高値3650円まで71%もの急騰を見せている。初値だけでなく公開価格も上回ってきた訳で見事な復活と言える。これは研究開発費用先行で赤字計上が続いてきた国産ドローンメーカーとしての同社への期待の表れだろう。

このところ人気化しているのがハンコヤドットコムを運営し印鑑などのEコマース通信販売事業を展開するAmidAホールディングス(7671・公開価格1460円・初値1552円)。同社株の初値は公開価格を6.3%上回っただけで極めて穏健なスタートとなった。その後12月25日には安値1030円をつけたが、年明けから一気に人気化。アナログで地味なイメージのハンコや印鑑なのだが今年は改元があるため特需期待というのが背景になっているようだ。本日はストップ高2日目で2500円という高値引け。同社の公開株数59万2200株に対して公開初日の出来高は67万4900株。これに対して1月4日からの立ち会い5日間累計の出来高は127万6100株。公開株は既に3回転している。人気継続となるかは予断を許さないが改元を材料にした思惑から突飛高の展開になりつつあるのが現状だ。

このように全体相場が一定水準までの戻りが想定される中で昨年12月のIPO銘柄も下振れから上向く展開が見られる。銘柄ごとに値動きのパターンは異なるものの変動の中に投資チャンスが内包されている。今後の値動きにも目が離せない。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)